

好地まちづくりだより

令和3年1月15日

第61号

謹賀新年

好地地区まちづくり委員会
総務企画部会

〒028-3101 花巻市石鳥谷町好地 8-78-3
(石鳥谷国際交流センター内)

問合せ・申込み ☎ 0198-45-6639
(好地振興センター内)

本年もよろしくお願いたします

年頭のご挨拶

好地地区まちづくり委員会会長 岩館 仁



令和3年の初めに当たり、ご挨拶を申し上げます。このお正月、皆様お健やかに過ごされたでしょうか？

去年は新型コロナで明け暮れた1年でした。振り返ってみれば、1月に中国武漢で新型コロナウイルス検出のニュースから始まり、2月のクルーズ船内での感染拡大のニュースあたりまではまだ他人事の感じでした。

その後全国の小中学校の臨時休校要請やマスクの品不足が始まって、徐々に国内でのコロナの感染が身近に感じられ始めたところに、3月のWHOのパンデミック発表や東京オリンピック・パラリンピックの延期、4月には緊急事態宣言が出されて、全国での小中高の休校やインターハイ及び夏の甲子園大会の中止が発表されるなど、ウィルスの感染拡大に伴い全国的な大規模イベントの自粛をはじめ、自治体や各種団体の文化・スポーツ等の行事のほか、さては個人的な集まりまで、軒並み中止に追い込まれたところでした。

5月になって緊急事態宣言は解除され、GoToトラベルの開始など事態は収束に向かうのかと一抹の望みもつかの間、夏には第2波の流行が始まり、また秋からは第3波となって、県内でも飲食店や病院等で大小のクラスターが発生するなど、感染は収束どころか拡大の一途をたどってきました。

そして年末には、国内でも感染力の強い新たな変異ウイルスへの感染が確認されて、大晦日にはこれまでに最大の感染者が確認されるなど感染が広がり続け、この先の状況が見通せない不安を抱えた方も多かったと思います。

「社会」は、人が集まって成り立っているものなのに、その基本となる集まりができない状態が続けば社会はどうなるのかと心配にもなりました。

でも、明けない夜はありません。ワクチンの接種が開始されるなど明るい光も見えてきています。感染を抑えるために日夜戦っている医療従事者の方々の努力に合わせ、私たちの日常においても感染の抑制に最大限の注意をすれば、きっと感染は抑えられると思います。

今はがまんの時節。「まちづくり委員会の事業が実施できるかどうか」ということは昔の夢を語るようで、今のコロナの状況では考えようもない感じがします。

去年は日本の惑星探査機「はやぶさ2」が、惑星の物質が入ったカプセルを無事に地球に届けたニュースが気持ちを明るくしてくれました。

このような明るいニュースや、日常の身近な楽しみを見つけながら、今は一日も早くコロナの感染が収まり、また皆さんと集まって、いろいろな行事を楽しむ日が来ることを待ちたいと思います。

皆さまのご健康を願い、年頭のご挨拶といたします。

初心者でも、無理せずやり易く行います。腹式呼吸法を中心にゆったりと各関節をほぐした後、優しいヨガのポーズを行います。リラックスしながら気持ち良く楽しみましょう。

- 日 時：3月18日（木）午前10時～11時30分
- 場 所：石鳥谷国際交流センター 和室
- 講 師：花巻市生涯学習講師 佐々木孝子さん
- 定 員：15人（好地地区民）
- 参加費：無料
- 申込み：3月11日（木）までに（電話可）
- 持ち物：水分補給の飲み物、汗ふきタオル、敷き物（バスタオルまたはヨガマット）、その他各自必要なもの



※新型コロナウイルス感染症防止のため、当日は、マスク着用・センター入口の検温・手指の消毒をお願いします。なお、今後の感染症拡大の状況によって、中止とする場合もありますのでご了承ください。

お知らせ！「カセットこんろ・カセットボンベ使用上の注意」

冬本番を迎え、寒さがより一層厳しくなってきました。これからの季節は、暖房器具等火器の使用も多く、空気が乾燥し火災が増加する時期となりますので、ご家庭でも調理用カセットこんろ・カセットボンベを使用する機会が増えると思います。下記の事に注意して適正利用に努めましょう。

- ・ボンベは、高温となる場所（ストーブやこんろの近く）では使用しない
- ・ボンベは、表示通り正しくセットして使用する
- ・こんろは、カーテンや壁等から離して使用する
- ・ボンベは、熱がこもり爆発する恐れがあるため、大きな調理器具は使用しない



○問合せ 花巻北消防署 45-2119

部会員コラム 『放置柿の木 VS サルとカニ達』

世界のコロナについて書こうと思ったがそれは荷が重いので・・・、季節を前にもどし秋のある晴れた日のことを書こうと思う。

その日、サル1匹と、カニ2匹で渋柿もぎをした。柿の木は植えて40年程になるだろうか？ 今年を持ち主が居なくなり帰れないので家族に頼まれた。

年老いたサルが、若くないカニを2匹連れて柿もぎに行った。梯子を2本組み合わせ、のこぎりとはさみ、高枝切ばさみまで持ち出し数々の道具を駆使して木に登り、汗だくになり、2匹に怒鳴る。

枝ごと落としてカニ達に取らせようとするが、話に花を咲かせ働かない！ 「手より口」コロナ禍の中久々の再会、秋の陽射しの中、ソーシャルディスタンスを取るとは言え、大きな声を出して楽しくおしゃべりをしていた。「働け!!」「働け!!」なかなか気持ちは届かない。

カニは午後になると、さらにもう1匹増えて大騒ぎ!! 長い間笑っていなかったことを思い出し、ストレスを解消。一方サルは、カニ達を木の上から見くだし、固い柿の実を投げつきたい気持ちをグット押さえて、もくもくと働き、夕方には小さい柿の木になった。これで葉が道路に落ちて滑る!との苦情もなくなるだろう。次は若いカニにしよう!

今、町内に実をつけた柿の木がどれくらい放置されているのだろうか？ 山のふもとの実のなる木を狙って家々の近くまで山から下りてくる動物が多くて困っていると聞く、カラスは中でも最悪だ。

人も動物も忘れ去られた木々も全部まとめて解決する方法はないのだろうか？いろいろ考えさせられた1日だった。(T・T)

